

## 生き隊・守り隊・地域と共にごんぱり隊、センターに現る?

11月始め、当センター所長室に、朝日小学校5年生ごたま組「生き隊・守り隊・地域と共にごんぱり隊」の元気な可愛いお客様が訪ねてきました。

「地球はゴミ箱じゃないよ、もっと地球と自分たちの住んでいる町を大切に」と、手作りポスターと廃油から作った石鹸を町内の各公共機関に配っているとのこと。微笑ましい訪問者に仕事の手を止め、真剣に話しをする姿に関心したり考えさせられた一時でした。



子供達は、早速ポスターを正面玄関に貼って、元気に隊（小学校）へ戻って行きました。

**ごんぱれ!**

生き隊・守り隊・地域と共にごんぱり隊  
みんなで応援しています。



### 第29回

## 森とのふれあい

11月7日（日曜日）「森林教室、あなた色に染めてみませんか」と、草木染めの森陽子先生を迎え草木染め体験を実施しました。

当日は空と晴れて染め物日和？。



子供も含めて28人の参加です。日程を説明後、キハタ組、イチイ組、イタドリ組に別れて、始めは染液づくりからです。イチイの色はピンク色、イタドリはどんなかなと見て回る人 なかなか色が出ないと、そわそわときどき 時間がたつうち、染液が出来上がり、いよいよ自分だけのハンカチを染める時。染液に浸けて、媒染をかけて出来上がり。ハンカチを手に記念写真をとったり楽しい時間でした。



## 知床の森から



北海道森林管理局北見分局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160  
ホムンヂ http://www.siretoko.knc.ne.jp/

平成11年12月 第64号



「ケラちゃん」  
知床森林センターシンボルマーク

知床では少し山に入ればまだクマゲラに逢うことができます。

## 知床は今

いよいよ本格的な冬がやってきた。凛とした空気の中に吐く息が白くなる。今年の夏は本当に暑かったが、今はそれも忘れてしまった。

知床連山の稜線に留まっていた雪も一気に里へ降りてきた。羅臼岳の岸壁にへばりついた氷雪は特に荒々しい。

このような、雪と氷のモノトーンの世界でも動物たちは逞しく生きている。

ヒグマは冬眠に入る頃である。今年の秋はミスナラのドングリが豊作であった。数もさるこ



とながら、その大きさも並外れて大きなものとなった。ヒグマはさぞや満腹であろう。



代わって、海岸沿いのヤチダモの大木にはオホーツク海を渡ってきたオジロワシやオオワシが羽を休め、真冬の主役となる準備をしている。

オジロワシは体長80cm、翼長2m、体重5kg、また、オオワシは体長1m以上、翼長2m40cm、体重6kgにもなる大型の猛禽類である。その堂々たる風格には圧倒されるものがあり、初めて見たときには感嘆の声を上げてしまった。

# 「ミスナラ堅果結実調査」

## 今年は豊作 巨大ドングリ

当センターでは「ミスナラ堅果結実調査」を平成元年より実施し、今年で11年目になります。

この調査は、知床半島の主要樹種であるミスナラの堅果（ドングリ）の結実状況などの把握を行い、その変動を明らかにミスナラ造成に資する目的で調査を行っています。

調査地は知床半島内に2箇所設置し合計25本のミスナラを調査木に選定しました。堅果の収集は、各調査木の枝の広がる（樹冠）下方3箇所にシートトラップを設置し落下堅果を収集しました。

堅果の収集時期は9月中旬～10月下旬まで、週1回固定曜日を収集日として5回実施しました。

下図は年度別のミスナラ1本当たりの堅果数量（棒グラフ）と堅果一粒当たりの重量（折線グラフ）をあらわしたものです。

年度別に堅果の数量をみると、平成元年、8年、11年の堅果数量が他の年度と比べ多く、豊作であったと考えられます。

豊作の出現頻度は文献によると6～17%



（巨大ドングリ）

なっていますが、平成元年から平成11年の調査の中で出現頻度は27%となり、文献よりも出現頻度が多い結果となりました。

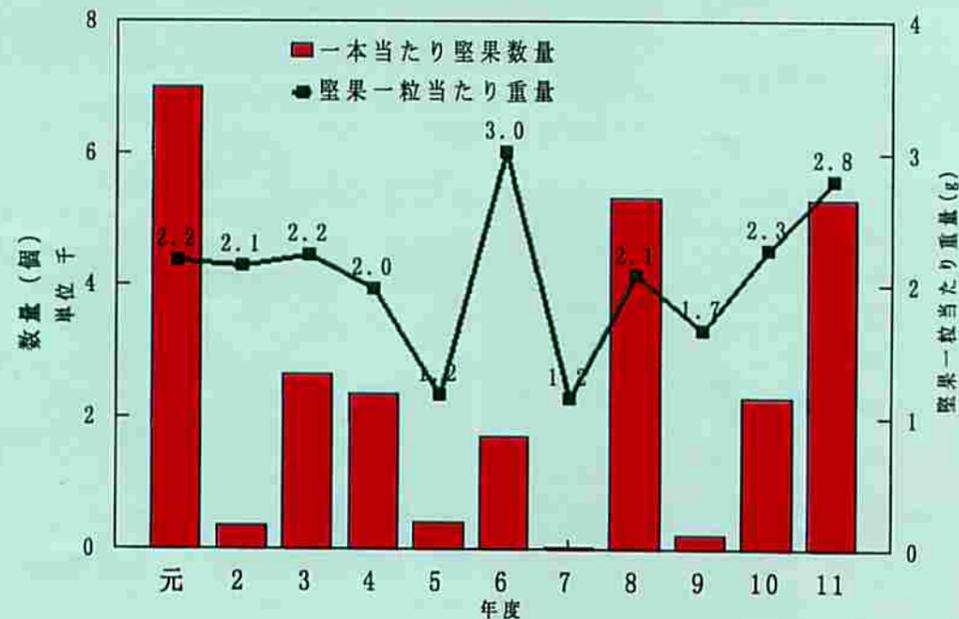
堅果一粒当たりの重量でみると、平成元年と6年は3.0g、11年2.8gとなり、今年と比較的堅果重量が重い年となりました。

調査をする中で、堅果は例年にない程大きなものが多くみられ、その他の周辺地域を踏査したところ、同様に大きな堅果の結実がみられました。写真は上のドングリが例年並の大きさで下の方が今年の巨大ドングリです。

これから長期に渡り堅果結実調査を続けていく中でミスナラの結実状況について解明できる結果が出てくるのを期待しています。

（参考文献：北海道におけるミスナラの分布、資源、生態、保護技術北海道林業試験場）

年度別 堅果数量及び重量



## 第51回 森林レクリエーション・in知床 紅葉の森で森林浴と自然観察

第51回「森林レクリエーション・in知床」『紅葉の森で森林浴と自然観察』を10月13日（水）に自然観察教育林で実施しました。

自然観察を通じて森林の働きなどを学ぶレクリエーションの場として、一般に解放している所です。

参加者は北見市をはじめ近隣市町村からの25名です。

当日は秋晴れのよい一日となり、観察トレッキングにはちょうど良い気温でした。

行きのバスでは、ネイチャーゲームとして樹木が子孫繁栄のためおりなす様々な種の散布の戦術を学び遊んでもらいました。現地到着後、紅葉や黄葉で色付いた知床の森をゆっくりと散策し、最初の見所は、濁れ沼のボンホロ沼です。

春には融雪水が溜まり例年であれば6月下旬ごろには涸れてなくなるため、幻の沼とも言われ親しまれています。丁度今時期は濁れ沼一面に生えているヒメシダが紅葉し赤い絨毯のようになり、羅臼岳を背景に参加者全員で記念撮影をしました。

さらに森林の中を進むと、ヒグマにより樹木に爪痕や過去に使用した冬ごもりの穴、エソシ



（クマゲラの实物大のパネル？うわこんなに大きい！）

カの足跡や糞の散乱と樹木樹皮食いの凄まじい跡など目の当たりにして動物たちの存在を知ることが出来驚いていました。

また、オホーツク海地方では珍しいエソユズリハの群生、所々に顔を覗かせる幌別川の小さな滝々、そして森林にはミスナラなどの大径木を見て感嘆し、改めて知床の原始的な姿に感動されていたようです。

天候にも恵まれ森林内での5キロ程度の登り下りの山道に、心地好い汗を流したり普段の運動不足を感じたりなどと、観光とは違う思い思いの知床の晩秋を楽しまれたようでした。



（注意して山道を下る参加者、もうすぐホロバツ滝です）



（知床の森をゆっくりと散策）